



石綿雜記

野澤石綿常務取締役 西村 豊

最近になって、石綿は新しい時代の輝ける物象として國民生活の中に力強くその地位を展開しつつある。この石綿資源がわが國では乏しくまたハイグレードが僅少であるため、長纖維のものは輸入にまたねばならないことも實績上知らねばならないことである。

石綿の用途は建築用資材はもちろんだが、硫安肥料製造用その他に不可欠の原料であることは案外専門家以外は知る人は少いようである。

今回の大戦前までは一〇〇%輸入で主としてカナダに依存していた。また鑛業法の適用をうけるに至つたのもわれわれが北海道で開發を初めてから三年後の一九四一年であつた。それでこの輸入の戦前における最高が一九三七年の四三七九六噸で、國內消費の最高は戦前戦後を通じて一九三九年の三三九四三噸である。昭和十六年に輸入が杜絶してからは國內増産に懸命となり一九四四年には最高生産八五六三噸に達した。その後一時減じたが昨年末では再び上昇して六〇〇〇噸に達している。これは國內需要量の三三〇〇噸に對して一八%に過ぎない。

産地としては北海道の空知、日高地方に集中している。その他新潟、島根、廣島縣下に産するが事業的には成立しない程度である。

最近數年間の平均一ヶ月消費率を用途別に區分してみると左の通りである。

スレーズ	紡績品	三三・二%
スレート	石綿製品類	六四・八%
ト類	高圧管、煙突	石綿製品類
	石綿板、ランバト	三三・二%
	石綿コンクリート	
	ライニングクラッチ	

最近の新局面としては原子爆彈の防禦用とか、ジェット機に使用してあると云う海外歸朝者の言である。

需給の不足は輸入その他ストックならびに回收品に依存する譯だが、石綿については數量のみに依存するのは不可で、その品位の高低を検討すべきは論をまたない。ところが近來輸入に際しハイグレードとともに國內で供給可能な五級以下のものが抱合せで入るため、強く國內市場を壓迫して山側を悲運に陥らしめている。ことに輸入品が、國産品に比して高價であるのに不足勝ちな國內輸入資金で抱合せを理由に不當に輸入していることは看過し得ない。

翻つてわが國における石綿の歴史というか、石綿が人間の目にふれたのはいつかという、實際年間に平賀源内が秩父産の石綿をもつて火で洗濯のできる布、すなわち火洗布を造つた當時のようである。しかし石綿が工業原料として取扱われたのは世界的産地カナダで、石綿が大量に發見せられた一八八六年頃である。

日本鑛業協會誌(第五卷第十一號)

十一月號目次

(卷頭言)

☆石綿雜記……………西村 豊 一

☆最近の金山事情と金鑛業對策……………田村 茂利 二

☆最近の非鐵金屬市況……………吉村 貞夫 七

☆金屬鑛業における春季賃金爭議の特色……………北里 忠雄 三

☆米國における銅界の將來觀……………渡部 亮 五

◎昭和27年度「日本鑛業協會賞」發表……………二五

(協會賞論文)

☆鑛滓扞止堤内部の電氣探查について……………加来 秀三 二四

☆チリ及びアフリカの銅資源……………三四

○金屬鈦山等保安規則等の一部を改正する省例……………三四

▽「月間の動き」……………三〇

▽協會だより……………三〇

▽ニュース……………三六

▽資料……………三八

【表紙写真】住友金屬鈦山別子鈦業所四阪島ニッケル熔煉工場転炉

熔煉工場転炉